

ホテル紹介 インドネシア・バリ島・ウブド パドマ・リゾート・ウブド

バリ島へ行ってきました。宿泊した【パドマ・リゾート・ウブド】についてレポートしたいと思います。

こちらのホテルはウブドとホテル名に書かれてはいますが、ウブド市内から約13km離れたパヤンガンという地区にあります。成田からの直行便でデンパサール空港に到着するのが17時半頃で空港を出発したのは18時半でした。そこからウブドまで約1時間半、そのウブドから約30～40分掛かります。ホテルに着く頃には辺りは真っ暗で初めて来た方は何処に連れて行かれるかと不安に思うかも知れません。

お部屋は約60mもあり非常にゆったりとしています。バルコニーも広く、バルコニーだけで東京のビジネスホテルの一部屋くらいの広さがあります。

ホテルレストランはホテル最上階の5階にあり、棚田(ライステラス)や森林を眺めながらの食事を楽しむことができます。インドネシア料理、中華料理、洋食、少しですが和食も用意されていました。種類が豊富で全てを食べるには1週間位は滞在しないと食べられないかも知れません。

ホテルのサービスとして14時30分から16時までアフタヌーンティが振る舞われます。お茶だけでなく、軽食の種類も豊富で多くのゲストが昼食の代わりに、こちらのアフタヌーンティを楽しまれている様です。



プールサイドからの眺め 部屋の一例イメージ

このホテルの最大の目玉はウブド唯一の温水プールです。ウブドは標高が高い為に朝晩が非常に涼しく、プールに入るには厳しい事もありますが温水なので問題なく入る事が可能です。早朝にはプールの水温と周りの気温の差で、湯気が立ち上り非常に幻想的な雰囲気にもまれながら入る事が出来ます。それでも体が冷えた方はホットジャグジーで体を温めたり、フィットネスジムには無料のサウナもあるので安心です。

また数多くの無料アクティビティーが用意されています。モーニングヨガ、マウンテンバイクツアー、田植え、動物との触れ合い、パハサレッスン(インドネシア語教室)、ローカルアーチェリー体験、アングルン体験(インドネシア伝統楽器)などが日替わりで用意されています。

こちらのホテルはゆっくりとホテル滞在を楽しむ人向けだと思います。

沖 島

ウブドってこんなところ？

バリ島の山間部に位置する、芸術や舞踊、宗教色が色濃く漂う村。バリ舞踊やテガラランの棚田(ライステラス)ゴアガジャ遺跡、雑貨屋巡りなど楽しみ方も様々で一度は訪れたい観光エリア。



5階のレストランからの眺め

ユネスコ無形文化遺産登録

「来訪神 仮面・仮装の神々」

昨年11月末に開かれた国連教育科学文化機関(ユネスコ)の政府間委員会で、「男鹿のナマハゲ」(秋田県)など10件で構成される「来訪神(らいほうしん) 仮面・仮装の神々」が無形文化遺産に登録されることが決まりました。2009年に単独で登録された「甌島(おしきじま)のトシドン」(鹿児島県)に加える形で登録されるため、日本の無形文化遺産の数は変わらず21件のままととなります。文化遺産登録としては2016年の「山・鉾・屋台行事」以来。

来訪神は、大みそかや正月などに仮面をかぶるなどして異形の神に仮装した者が集落や家を訪れて怠け者を戒め、人々に幸福をもたらすとされる行事の全般を指します。最も有名なのは秋田のナマハゲで皆さんもイメージしやすいと思います。今回は、そのナマハゲやトシドンの他に「能

登のアマメハギ」(石川県)など東北地方から沖縄まで8県の10件が登録の対象となりました。10件はいずれも国の重要無形民俗文化財に指定されていたものです。あなたはいくつご存知ですか？

- 1 「男鹿(おが)のナマハゲ」(秋田県)
 - 2 「吉浜(よしはま)のスネカ」(岩手県)
 - 3 「米川(よねかわ)の水かぶり」(宮城県)
 - 4 「遊佐(ゆざ)の小正月行事」(山形県)
 - 5 「能登のアマメハギ」(石川県)
 - 6 「見島(みしま)のカセドリ」(佐賀県)
 - 7 「悪石島(あくせきじま)のボゼ」(鹿児島県)
 - 8 「薩摩硫黄島のメンドン」(鹿児島県)
 - 9 「宮古島のパーントゥ」(沖縄県)
- これらにもともと単独登録されていた「甌島(おしきじま)のトシドン」を合わせ計10件

南米・ボリビア 「天空の鏡」が映し出す 幻想的な大パノラマ ウユニ塩湖



真っ青な空とそこに浮かぶ白い雲、そんな景色が果てしなく続く塩田に鏡のように映り、空と陸の境目が分からなくなるような幻想的な大パノラマを『一度は行きたい世界の絶景』として写真やテレビの映像などでご覧になられた事がある方も多いと思います。この絶景を生み出す『ウユニ塩湖』は、南米・ボリビアの南西部、標高は富士山とほぼ同じ3700メートルの高地にあり、広さが四国地方の半分ほどにもなる広大な塩の平原です。それだけ広い場所でありながら、高低差が約50センチほどしかなく、世界で最も平らな場所として知られています。日本にしてみれば地球の裏側に位置する秘境にたどり着いてこそ目にする事ができる絶景と言いたいところですが、この絶景そう簡単には見せてもらえないのが人々を魅了する理由の一つかもしれません。

ウユニ塩湖のある地域の気候は、雨季と乾季がはっきりと分かれています。それぞれの季節で見られる景色が違います。乾季は4月～10月。塩湖は完全に干上がり、一面の塩の大地が広がります。高低差のない真っ白な平原は遠近感を狂わせ、トリックアートのよう



<イメージ>

な面白い写真を撮ることができます。欧米人に人気なのはこちらの季節。また、乾季は雲が少なく空が澄んでいるので夜空に瞬く星がより綺麗に見ることができます。

雨季は11月～3月、その中でも1～3月頃が冒頭で紹介した鏡張りの幻想的な風景が見られる季節です。ただし、この季節に行ったとしても必ずしも鏡張りの風景が見られるわけではないのです。雨季といえども常に雨水が溜まっているわけではありません。また雨水が多すぎてもダメでほどよく塩湖に溜まっている状態がよく空を映します。さらには風で水面が揺れると綺麗な鏡張りにはならないため、風がない事が条件として挙げられます。また降った雨で湖面に泡や塵が浮いていない事などなど、いくつもの自然条件が揃わなければなりません。限られた旅行日数の中で、鏡張りの絶景に出会うためには、いくつもの自然の条件をクリアしないといけないことがお分かりいただけたでしょうか。それらを理解した上で実際に鏡張りの絶景を見る事ができたら、感動もひとしおでしょう。

ウユニ塩湖は何を見に行くか、その目的によって旅行シーズンが違い、乾季・雨季それぞれに見どころがあります。日本から遠く、観光旅行の情報がまだまだ少ないエリアですが、それだけにきっと新しい発見やまだ見ぬ絶景に出会うことができる場所ではないでしょうか。

【モデルコース】

日数	日 程	食
1日目	東京→メキシコシティ→リマ	機
2日目	リマ→ボリビアの首都ラパス 午前中ホテルにて休憩 午後：ラパス市内+月の谷観光	機× 夕
3日目	ラパス→ウユニ ★世界最大の塩湖・ウユニ塩湖観光 ★塩のホテル 宿泊	朝 昼 夕
4日目	★世界最大の塩湖・ウユニ塩湖観光 ★塩のホテル 宿泊	朝 昼 夕
5日目	ウユニ→ラパス 午後：ティワナク遺跡観光 (プレインカ時代の巨石遺跡群)	朝 × ×
6日目	ラパス→リマ→メキシコシティ (機中泊)	朝 × ×
7日目	メキシコシティ→ (機中泊)	
8日目	東京	

ミャンマー ビザが1年間免除

ご存じでしたか？昨年10月から試行期間として今年の9月までの1年間、日本と韓国の旅券を持ちミャンマーを訪れる旅行者を対象にツーリストビザが免除されています。

免除以前は、事前にインターネットや在日ミャンマー大使館でビザを申請・有料で取得しなければミャンマーに入国することができませんでした。この試行措置、入国可能な空港、港等に限られていたり、最長滞在期間は30日間で延長不可、帰国日が一ヵ月以内の航空券を所持していることなど、いくつかの条件がありますが、この機会にミャンマーを訪れてみてはいかがでしょうか。

「塩のホテル」ってどんなホテル？

文字通り塩でできたホテルです。ウユニ塩湖の周辺にあり、壁やテーブル・椅子、ベッドの土台などが全て塩を固めたブロックでできています。ここに泊まる最大のメリットは、ウユニ塩湖の刻々と変わる表情を24時間堪能することができることでしょうか。ちなみに劣化を防ぐため舐めることは禁止されているそうです。



<イメージ>